

学生の確保の見通し等を記載した書類 目次

1	学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	P. 2
①	学生の確保の見通し	P. 2
	ア 定員充足の見込み	P. 2
	イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	P. 3
②	学生確保に向けた具体的な取組状況	P. 3
2	人材需要の動向等社会の要請	P. 5
①	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	P. 5
②	上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	P. 5

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア. 定員充足の見込み

【人文科学研究科日本文学専攻の概要】

昭和 30（1955）年 4 月の設置から 65 年を超える歴史を有する、本学大学院人文科学研究科日本文学専攻（博士後期課程）は、わが国の高等教育を支える多くの大学教員をはじめ、これまで有為な人材として博士の学位を 56 名に授与してきた。開設以来、入学定員 2 名、収容定員 6 名の定員規模で、大学教員をはじめとした研究者や高度な専門的業務に従事する人材を養成してきたが、ここ数年は、《資料 1》のとおり、慢性的な収容定員超過の状態が続いている。

この背景には、昼夜開講制や長期履修制度の導入をはじめとした、社会人のニーズに対応したカリキュラムや制度の諸改革に加え、日本研究に特化した専攻横断的なカリキュラム国際日本学インスティテュートによる学生受け入れを図ってきたことなどが考えられる。特に、国際日本学インスティテュートでは、中国の 5 大学（四川外国語大学、重慶師範大学、西南民族大学、福州大学、福建師範大学）との協定に基づく特別入試を実施している他、従来の分野におさまりきらないテーマや広い視野で日本を研究したいと考えている学生や社会人、外国人留学生など多様な学生を受け入れてきている。さらに、令和 4（2022）年度からは、わが国を代表する能楽の総合研究機関である「野上記念法政大学能楽研究所」と連携し、博士後期課程に「能楽資料特別研究」等 4 科目を開設し、重要文化財を含む全国屈指の収蔵量を誇る同研究所の能楽関係資料について研究を深める科目を設け、能楽の発展と振興にも寄与している。また、修業年限を超えて在籍する学生が一定数存在することも収容定員超過の要因となっているが、課程制大学院の本来の趣旨に則り、定められた修業年限で学位取得が可能となるよう、これまで以上に学生の意識改革を伴う研究指導を徹底していく。

本専攻は、引き続き、日本文学をより広い視野の中で捉えることができる専門知識と研究課題発見及び探求の能力を育成するとともに、国語教育などの科目を設置し研究のみならず教育分野においても高度な専門知識を涵養していく。これにより古代から現代までの文学・芸能および日本言語学に関する高度で専門的な知識を習得することを通して、専門領域における諸文献を正確かつ批判的に読解・分析する能力を持つ人材の育成に努めていく。

【定員充足の見込み】

日本文学専攻（以下、本専攻）では、毎年度の入学定員 2 名（収容定員 6 名）に対して、年 2 回実施される入学試験の合格者数、入学者数、在籍学生数は、ここ数年、ほぼ定員を超過している状況にある《資料 1》。このうち、入学試験の受験者と入学者で大きな数を占めているのが、国際日本学インスティテュートへの入学を希望する学生であり、これが入学定員を入学者数が上回ることの 1 つの要因となっている。国際日本学インスティテュートは、人文科学研究科内の哲学・日本文学・英文学・史学・地理学の 5 専攻が緊密に連係及び協力して開設している、日本研究に特化した横断的な教育研究プログラムとなっている。思想・サブカルチャー・芸術・文学・言語・歴史・民俗・生活文化・地理・環境・経済などを切り口に、日本について深く探求することを目指している。一言で「日本」といっても、そこには多様な側面が存在しており、日本研究の領域は大きな広がりがある。本専攻の入学者が定員を超過しているのは、こうした従来の分野におさまりきらないテーマや広い視野で日本を研究したいと願っている学生、社会人、外国人留学生から高い評価を得ている結果である。あわせて、伝統的な日本文学を中心に、豊かな教養と高度な研究能力を修得で

きる博士後期課程としても評価されており、古代から現代までの各時代の文学・言語・芸能に関する研究を深めたいという学生、社会人、外国人留学生が入学している。また、修士課程においては、中国の5大学（四川外国語大学、重慶師範大学、西南民族大学、福州大学、福建師範大学）との協定に基づく特別入試を実施しており、新型コロナウイルス禍で入国が困難な状況であるにも関わらず、令和4（2022）年度には9名が入学手続きを行い、入国が叶わない大学院生も、ハイフレックス型のリモート授業を受講している。

以上から、本専攻における定員充足の見込みは、伝統的な研究を重視する学生、社会人のニーズに加え、従来の考え方にとらわれない自由な発想と方法で、新たな日本を発見しようとする外国人留学生のニーズにも適合し、人文科学研究科国際日本学インスティテュート修士課程からの内部進学者の安定的な確保が見込まれることから《資料2》、今後も引き続き安定して定員を充足することが可能であると考えられる。

《資料1》人文科学研究科日本文学専攻博士後期課程における定員充足の状況（平成29（2017）年度～令和4（2022）年度）

《資料2》人文科学研究科日本文学専攻博士後期課程 入学者の状況

イ. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

《資料1》より、志願者数は平成29（2017）年度の入学試験以降、平成30（2018）年度を除き、全ての入試において入学定員を上回っている。志願者が最も多い入試では、入学定員の5倍となっている。入学者数においても、平成30（2018）年度を除き、全て入学定員を上回っている。また、在籍学生数については、大きく収容定員を上回る状況が近年続いている。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

ア. 取組状況

本専攻では、学生確保に向けた取り組みとして、年4回（6月、7月、11月、12月）入試説明会を実施している。その際、受験予定者に対して、希望する指導教員への個別相談を受け付けている。特に、個別相談では、入学希望者の研究テーマに沿った研究指導体制を構築できるかどうかが重要な問題となるため、そのニーズに合致した指導体制の構築を念頭に相談にのり、受け入れ態勢を整えることを重視している。そのため、本専攻は日本文学の広範な研究領域に対応のできる教授陣をバランスよく配置し、多様な進学希望者の希望に対応可能な研究指導体制を構築している。

イ. 定員超過率が0.7倍未満の既設学科における学生確保に向けた具体的な取組状況（通信教育課程）

定員超過率が0.7倍未満の通信教育課程の3学部（法学部、文学部、経済学部）には、働き盛りの30～40代の社会人学生が多く在籍しているが、最近では20歳前後の若い世代の学生の入学も増加の兆しが見られる。特に、平成31（2019）年度、令和2（2020）年度の入学者に対する18歳～22歳の若年層の割合は40%にも達しており、今後も安定的に30%超を占める傾向が想定される。また本学では平成28（2016）年に「ダイバーシティ宣言」を発し、性別、年齢、障がいの有無にかかわらず多様性を受け入れることを謳い、様々なバックボーンを持つ学生が通信教育部に入学している。人生100年時代の社会人の学び直しや生涯学習が盛んに言われる中、従来の通信

学習のみならず、インターネットを媒体としたメディア授業の拡大や遠隔会議システムを活用した双方向教育の展開等によって、通信教育部は、学生の状況に応じて、時間と場所の枠を超えて、いつでも・どこでも学ぶことのできる学習環境の提供をより一層強固なものとしている。

平成 25（2013）年度より「通信教育部改革」と称し、カリキュラムを大幅に見直すとともに、メディアスクーリングの拡充、ゴールデンウィークスクーリングの新設、土日に開講する週末スクーリングの開設、新入生・在学生向けの学習ガイダンスの開催、e-mail を利用した学習相談、卒業生による個別相談会等、きめ細かな履修指導を継続的に実施してきた。特に IT を活用したメディアスクーリングは、「通信教育部改革」前（平成 24（2012）年度）には、28 科目・延べ受講者数 1,000 名であったのに対し、平成 31（2019）年度は 80 科目・延べ受講者数 6,965 名、令和 3（2021）年度は 93 科目・延べ受講者数 9,576 名と年度を重ねるごとに大幅に拡張してきた。このメディアスクーリングはデジタルネイティブ世代から社会人現役世代までの学生に非常に好評を得ており、在学生アンケートの結果からも更なる拡充を求める声も多く聞かれる。このメディアスクーリングを「いつでも・どこでも学べる」学習方法の主軸として入学検討者にアピールし、入学者数の増加に繋がるよう取り組んでいる。

コロナ禍で急速に浸透したオンライン授業形式の実施について、令和 2（2020）年度以降、遠隔会議システムを活用したスクーリングを臨時的に実施してきた。感染症拡大を防止する手立てとしての導入であったものの、教員、学生双方にとっての利便性の高い教育・学習支援ツールであることが確認できている。教育効果が確保できていること、継続の要望が多数寄せられていることから、遠隔会議システム（Zoom 等）を利用したリアルタイム形式のスクーリングの常設についても、今後の重要な施策として本格的な導入のための検討を進めていく。

入学者を増やすための他の施策として、学内外の入学説明会を継続して実施している。令和 3（2021）年度には遠隔会議システムを利用して、事前予約制のオンライン個別入学相談会を開催した。通信教育協会主催の合同入学説明会にも積極的に参加し、東京近郊のみならず、札幌・福岡等の地方の入学者獲得に向けた広報活動にも力を入れている。2022 年春期合同説明会には対面形式にて参加し、全国 7 会場で説明会を実施した。コロナ禍を受けて、従来と同様の形式による対面の説明会には限界があるため、通信教育部 Web サイトにおける説明会コンテンツの充実や、チャットボットの更新による必要な情報の検索機能の強化など、Web による学生への周知・案内のための環境を整備していく。これまで実施してきた学生確保に向けた施策により、近年では入学者の増加が顕著である。下表にあるとおり、平成 30（2018）年度の入学者数は合計 1,085 名であったが、令和 3（2021）年度には合計 1,473 名となり、約 35.8%増にて推移している。通信教育協会や他大学との連携の機会を最大限に活用して、入学者の増加及び学生の確保に向けた施策を継続して取り組んでいく。

＜法政大学通信教育部入学者数・在籍者数等の推移＞

（人数単位：人）

学部・学科		2018 (平成 30)	2019 (令和元)	2020 (令和 2)	2021 (令和 3)	平均
法学部 法律学科	入学定員	3,000	3,000	3,000	3,000	—
	入学者数	227	307	264	315	278.3
	入学定員充足率	0.07	0.10	0.08	0.10	—
	在籍者数 ※	1,232	1,182	1,253	1,295	1,240.5

文学部 日本文学科 史学科 地理学科	入学定員	3,000	3,000	3,000	3,000	—
	入学者数	345	366	355	430	374
	入学定員充足率	0.11	0.12	0.11	0.14	—
	在籍者数 ※	1,871	1,821	1,840	1,929	1,865.3
経済学部 経済学科 商業学科	入学定員	3,000	3,000	3,000	3,000	—
	入学者数	513	590	671	728	625.5
	入学定員充足率	0.17	0.19	0.22	0.24	—
	在籍者数 ※	2,143	2,201	2,306	2,557	2,301.8
合計	入学定員	9,000	9,000	9,000	9,000	—
	入学者数	1,085	1,263	1,290	1,473	1,277.8
	入学定員充足率	0.12	0.14	0.14	0.16	—
	在籍者数 ※	5,246	5,204	5,399	5,781	5,407.5

※在籍者数は当該年度5月1日現在。入学者数・在籍者数ともに本科生のみ。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本専攻は、博士後期課程として、文学研究若しくは文芸創作に必要な読解力・分析力・批判力・想像力・文章表現力を身につけ、教育研究機関をはじめ社会に貢献する能力を有し、独自で新しい知見を加える自立した研究者としての能力を身につけ、高等教育研究機関等で後進の指導に当たる能力を有する人材の養成を目指している。あわせて、国際日本学インスティテュートでは、専門性の高い知識、幅広い教養、高い人間性に加え、コミュニケーション能力を有し、研究・教育現場や地域社会・国際社会で活躍できる人材の養成を目指している。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

博士課程後期課程への入学者の増加と博士学位授与者の輩出は、わが国の大学院博士課程後期課程に課された使命と受けとめている。本専攻を修了した博士学位取得者の進路で最も特徴的なものが大学教員への就任であり《資料3》、この中には、外国の大学で日本語教育に携わる者や国立大学法人筑波大学、学校法人法政大学、学校法人目白大学、学校法人東京福祉大学、学校法人常葉大学、学校法人大正大学などの教員職として、豊かな感性と論理的な分析力、考察力や創造性といった資質、能力を備え、社会に貢献できる人材育成に関与している。また、博士学位取得後もそのまま、勤務先の中等教育機関などでの教職員として、良識ある社会人の育成を通じて社会に貢献している者もいる。

博士の学位授与の円滑化については、これまで、学位制度の見直しや関係者自身の意識改革により、改善されてきてはいるものの、特に人文科学系については、いまだ不十分と言わざるを得ない。このような状況を踏まえ、課程制大学院の本来の目的である厳格な成績評価と適切な研究指導により標準修業年限内に円滑に学位を授与することのできる体制を整備することが必要であると受けとめている。その際、これらの取り組みが大学院教育に求められる学生の個性、創造性の伸長に資する教育・研究指導を妨げるものであってはならないことにも留意すべきであるとされている。

本専攻は、こうした留意事項を踏まえ、博士後期課程学生の創造的な研究活動を、研究指導教員による論文指導を通じてサポートし、標準修業年限内に博士学位の取得が可能になるように研究指導するもので、社会的・地域的な人材需要の動向に合致した体制を構築している。また、本研究科修了生と博士学位取得者に対する社会的な需要の高さは、前述したとおり明らかである。

《資料3》人文科学研究科日本文学専攻博士後期課程修了生の進路状況

以 上

学生の確保の見通し等を記載した書類

資料目次

- 資料 1 人文科学研究科日本文学専攻博士後期課程における定員充足の状況（平成 29（2017）年度～令和 4（2022）年度）
- 資料 2 人文科学研究科日本文学専攻博士後期課程 入学者の状況
- 資料 3 人文科学研究科日本文学専攻博士後期課程修了生の進路状況

《資料1》人文科学研究科日本文学専攻博士後期課程における定員充足の状況
(平成29年度(2017年度)～令和4年度(2022年度))

	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
志願者数	6	1	10	7	4	4
入学者数	4	1	7	2	3	2
入学定員	2	2	2	2	2	2
志願倍率	3.00	0.50	5.00	3.50	2.00	2.00
入学定員充足率	2.00	0.50	3.50	1.00	1.50	1.00
在籍者数	32	28	30.25	28.25	24.75	20.75
収容定員	6	6	6	6	6	6
収容定員充足率	5.33	4.67	5.04	4.71	4.13	3.46

※令和元(2019)年度以降、長期履修制度の導入に伴い、長期履修学生の在学者数を、その実際の人数に、修業年限を当該学生が計画的に教育課程を履修することを認められた一定の期間で除して得た数を乗じて算出された数に置き換えて、収容定員充足率を算出した。

在籍者数のうち、長期履修学生の状況(令和元(2019)年度～令和4(2022)年度)
(令和元(2019)年度より、長期履修制度を導入)

	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
長期履修(4年)	1	1	1	1
長期履修(6年)	1	1	2	2
長期履修学生数(合計)	2	2	3	3

《資料2》人文科学研究科日本文学専攻博士後期課程 入学者の状況

	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
入学者数	4	1	7	2	3	2
法政大学出身者（内数）	3 75.0%	1 100.0%	6 85.7%	1 50.0%	2 66.7%	2 100.0%
他大学出身者（内数）	1 25.0%	0 0.0%	1 14.3%	1 50.0%	1 33.3%	0 0.0%
社会人（勤労者）（内数）	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 33.3%	1 50.0%
外国人留学生（内数）	2 50.0%	1 100.0%	4 57.1%	0 0.0%	2 66.7%	0 0.0%

《資料3》人文科学研究科日本文学専攻博士後期課程修了生の進路状況

法政大学文学部教授、法政大学文学部兼任講師、岡山大学准教授、大正大学教授、筑波大学、東京福祉大学、常葉大学教授、長崎外国大学特任講師、新居浜工業高等専門学校准教授、目白大学人間学部専任講師、中国福州大学日本語学科外籍教師など

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
一	学長	ヒロセ カツヤ 廣瀬 克哉 ＜令和3年4月1日＞		法学博士		法政大学 総長 (令和3.4～令和7.3)